# 実践事例⑫　西東京市立東小学校

障害者理解

## 1 取組・活動名

「だれもが関わり合えるように」

## 2 取組・活動のねらい

○　障害のある方の話を聞いたり、疑似体験をしたり、障害のある方の自立支援に関わっている人の話を聞いたりすることを通して、社会には自分とは違う生活をしている人達がいることに気付く。
○　自分がどのように障害のある方と関わり合いをもったらよいのか考え、自分の生き方につなげようとする。

## 3 教育課程上の位置付け

「総合的な学習の時間・33時間」

## 4 実施上の工夫

オリンピック・パラリンピック教育との関連でパラリンピック競技「ボッチャ」を体験する。

自分たちで調べたことをさらに実感できるように、盲導犬を利用している方の話を聞いたり、手話体験、点字を打つ体験、認知症サポーター養成講座を受講したり、車いす体験や高齢者疑似体験セットの着用、アイマスクの着用を行うことにした。

話し合いをする際にホワイトボードを用いて、分担をする方法を考えた。全員が話し合い活動に積極的に参加できるようにホワイトボードミーティングを取り入れた。

## 5 本取組・活動の内容

**「盲導犬体験」**

・　盲導犬使用者の方から、実際に盲導犬を使用している時の気持ちなどを聞き、分からないことを質問した。あらかじめ、聞きたいことを考えておくことで興味をもって話を聞くことができた。
・　また、実際に盲導犬を連れて歩く姿を目の当たりにしてあらためて視覚障害者との関わり方を考えることができた。

「ボッチャ体験」

- パラリンピック競技、「ボッチャ」を体験した。ボッチャはどんな障害がある人達が楽しめるスポーツなのかを学び、実際に競技をしてみた。
- 障害の有無にかかわらず、誰もが楽しめるスポーツという点に子供たちは非常に興味をもっていた。障害者とも一緒にスポーツができることに気付くことができた。

「高齢者疑似体験」

- 社会福祉センターから高齢者疑似体験セットを借り、お年寄りの日常生活の不自由さを体験した。体の動かしにくさや、視界の狭さなど、お年寄りの大変さを実感することができた。
- 体験後には、お年寄りとどのように関わったらよいのか、重い荷物を持っていたら助けたい、電車で席を譲りたいなど意識を高められた。

## 6 成果

- 子供たちが体験活動で学んだことから、実際にどのように関わり合いたいか積極的に考えて話し合い活動ができた。

  ホワイトボードを活用したことで、内容が可視化できて全員の考えが見られ、話し合いが活発に行われた。今後、子供たちのやりたいと考えたことをいかに実行に移していくかが課題である。

  オリンピック・パラリンピックの競技を経験したことで、オリンピック・パラリンピックへの興味・関心がもてるようになった。